理解度&釣れる度100%

マルキユー

優良餌本®

KEEP YOUR GOOD FISHING
爆釣を約束する餌本です

実寸大エサ付け&オモリ解説付き

# へらエサパワーブック

HERA BAIT POWER BOOK

2013 夏秋号 なつあきごう

Contents


02「凄麩」特集／特徴解説

04「凄麩」特集／両ダンゴの浅ダナ釣り

08「凄麩」特集／両ダンゴのチョーチン釣り

12 ダンゴエサの調整法

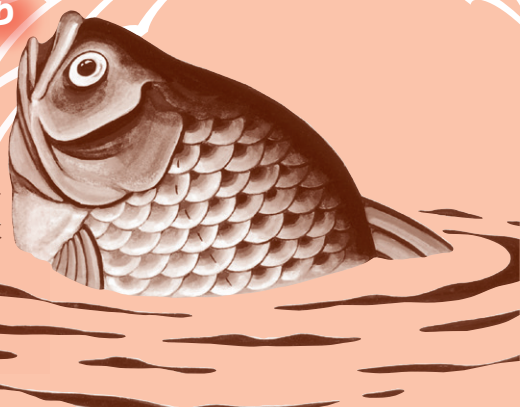
14「ヒゲトロ」セットの浅ダナ釣り

20「ヒゲトロ」セットのチョーチン釣り

26 ペレ宙

32 両ダンゴの浅ダナ釣り

34 両ダンゴのチョーチン釣り

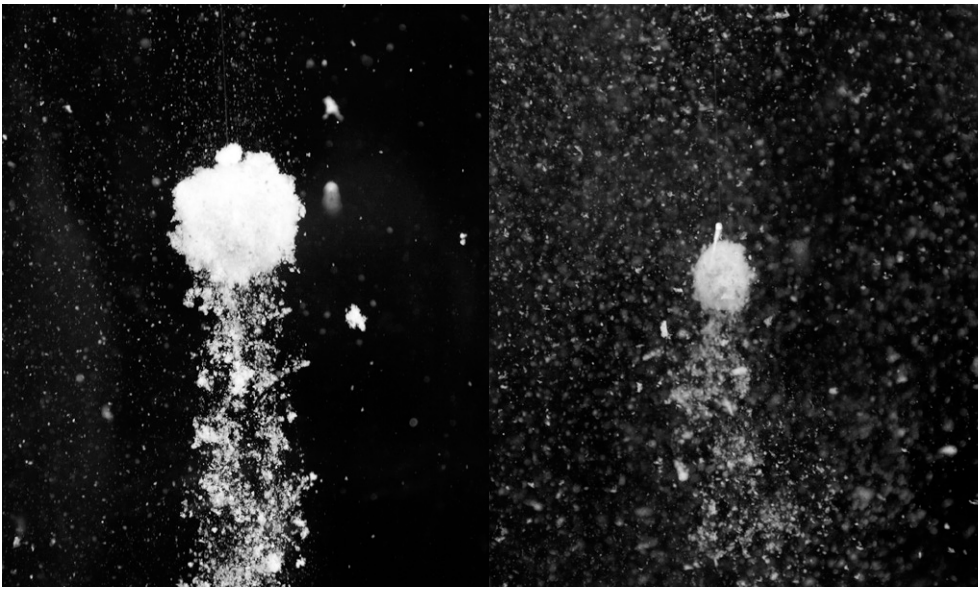
# 「凄麩」特集／特徴解説

## 膨らみが良く、しかも芯残りするベースエサ！

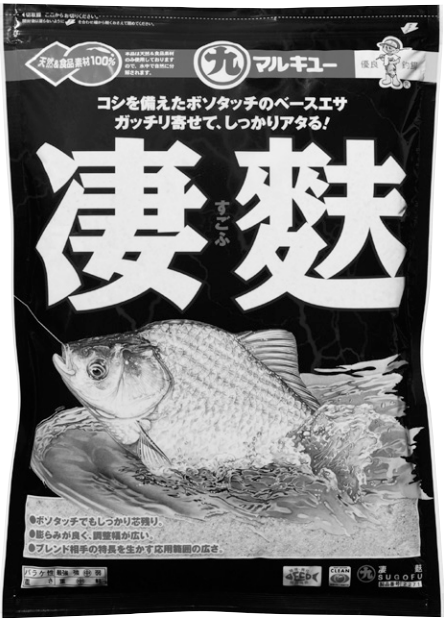
「凄麩」には大きく分けて３つの特徴があります。まずボソタッチでありながらしっかり芯が残り、強いアタリがでるという特徴です。麩エサの常識ではボソ感の強いエサほど開きが良くなるため、吸水するとエサの芯はもろく砕けてしまいます。これを避けるためにはエサにネバリを加えなければなりませんが、そうするとボソ感は徐々に失われてしまいます。つまりボソ感とエサ持ちは反比例するようなもので、ボソで芯持ちが良い麩エサというのは、ある意味常識はずれのエサなのです。それが「凄麩」では見事に克服されていますので、ボソの集魚性を損なうことなくエサの芯がハリに残り、確実に食いアタリをだしてくれるのです。

２つめはエサの膨らみが良く調整幅が広いという特徴です。ボソタッチでもエサ持ちが良いということは先に述べましたが、さらにエサ持ちを良くしたいときには練るだけでエサ持ちが強化でき、しかもエサの膨らみが損なわれることがありません。しかも従来の麩エサでは調整が困難であったところまでタッチの幅を広げられるので、状況の変化に対する対応力が向上すると共に、テクニックが未熟な初中級者にとっては扱えるエサ幅が広がるので、当然アタリも増えて釣果がアップすること請け合いです。

３つめはブレンドする麩材の特徴を生かしつつ、自らの特性を発揮できる性能です。先に述べた調整幅の広さとも関連しますが、ネバリの少ないカタボソタッチからペトコン気味に練り込んだヤワネバタッチまで、釣り人

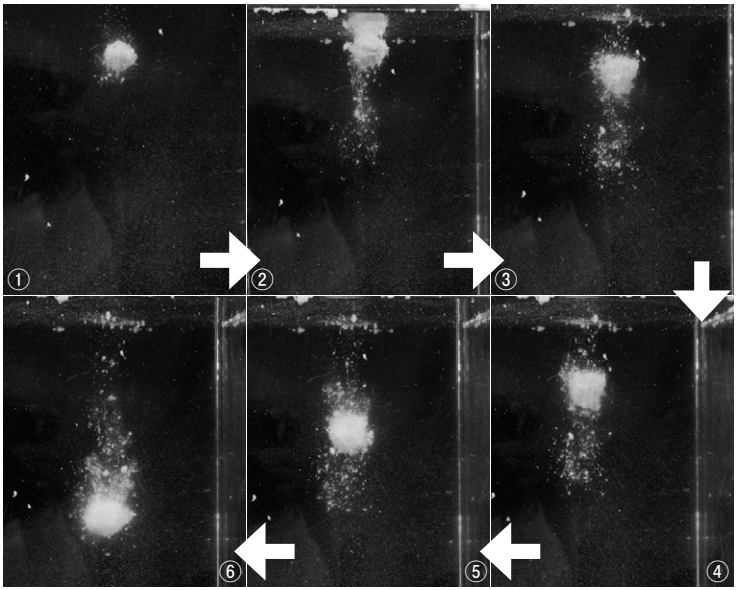


タナで大きく膨らみアピール力は抜群。しかも、これだけの膨らみがありながら最後までハリにしっかり芯残りするので、食いアタリがでる。相反する特徴を併せ持つのが「凄麩」の凄いところ。（※「凄麩」５：水１の単品仕様）




各自の好みの麩エサとの組み合わせで調整が可能です。しかも「凄麩」独自の特性を発揮できるので、従来のブレンドではエサが持たなかったとか、開きが悪くてカラツンが克服できなかったなどというときに「凄麩」を軸にした好みのブレンドを用いれば、そうした悩みや欠点が克服されるという訳です。

ブレンドの基本は「凄麩」3に対して好みの麩材を2合わせ、それに水1を加えたものが基エサとなります。「凄麩」そのものは凄いポテンシャルを持っているにも関わらず、意外なほどクセのないマイルドな感触なので、ネバる・開く・重い・軽いなど性格のハッキリした麩材を組み合わせると、より特徴を生かしたエサ使いが可能になると思います。そして揉んだり練ったりといったエサをいじることを恐れず、徹底して手を加えるエサ使いにチャレンジしてください。規制も限界もありません。それこそが「凄麩」のポテンシャルを最大限に引き出す方法なのです。




①丸めたエサを水槽に落としてみる。
②エアー含んでいるので軽いためいったんエサは浮く。
③水を吸水してから落下を始める。
④この時の落下は非常にゆっくり。
⑤大きく膨らんだ形のまま落下していく。
⑥そのままタナまで入っていく。

# 両ダンゴの浅ダナ釣り
## 高活性時でもエサが持つ重めブレンド

**凄麩300cc＋**
**ダンゴの底釣り夏100cc＋水100cc**

### ●作り方
「凄麩」300 ccと「ダンゴの底釣り夏」100 ccをボウルに取り、粉の状態で良く混ぜ合わせてから、水 100 ccを注いで 30 回ほどかき混ぜる。エアーが抜け、指先にネバリを感じるぐらいが基エサの目安。作りたては少し軟らかめの仕上がりだが、5 ～ 6 分放置すると全体にしまってくる。

### ●特徴
膨らみに優れた「凄麩」に「ダンゴの底釣り夏」をブレンドすることで、重さとまとまりでエサ持ちを良くし、タナに入ってからの膨らみでアピールする。「凄麩」を多くブレンドすることで経時変化も少なく、ネバリによるアピール不足も解消している。

### ●使い方のコツ
まとまりが良いエサなので、「エアーの抜き加減」、「練り加減」での微調整のみで OK。エアーの抜き方は、小分けにして（半分くらい）3 ～ 4 回ほど押し練りを加える。これで落下速度も良くなるが、さらにエサ持ちを良くしネバリをだすには手水を打って軟らかくして「握るようにして練る」、さらには「エサボウルにこすりつける」ようにする。

# 「凄麩」特集

## ブレンドの考え方

ベースエサ

### 凄麩

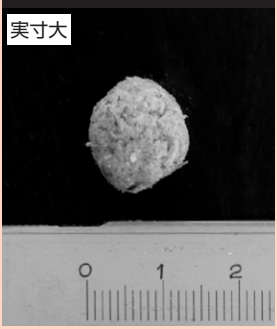
コシを備えたボソタッチのベースエサ。ボソタッチでもしっかり芯残りし、へら鮒を寄せながらアタリがだせる。膨らみが良くて調整幅も広く、持たせたいときも練るだけで対応可能。ブレンド相手の特徴を生かす応用範囲が広いので、浅ダナからチョーチンまで、あらゆるダンゴエサのベースに使える。

### ダンゴの底釣り夏

比重があり、ネバリもでやすい。そのため「ダンゴの底釣り夏」をブレンドするときは初めから軟らかめに仕上げて、その後はあまりいじらないようにするのがコツだ。

ブレンドエサ

### ●エサの大きさ




### ブレンドの調整

使い方のコツで記しているように「凄麩」をベースにした場合は、ブレンドを調整するよりも「エアーの抜き方」と「練り加減」で調整したほうが簡単でエサを変化させやすい。そのため、エサが持たない→押し練り５～６回でエアーを抜く→さらに手水を打って押し練り５～６回→手水を打って握るように練る→手水を打ってエサボールにこすりつけるように練る、の繰り返しでエサ持ちとタッチを調整すると良い。

# 両ダンゴの浅ダナ釣り

## やや渋いときにタナへ呼び込む軽めブレンド

# 凄麩200cc＋BBフラッシュ200cc＋水100cc

＋

＋

### ●作り方

「凄麩」200 ccと「BB フラッシュ」200 ccをボウルに取り、粉の状態で良く混ぜ合わせてから、水 100 ccを注いで 30 回ほどかき混ぜ、エアーを含んだボソではなく、指先にネバリを感じるようなタッチに仕上げる。

### ●特徴

「凄麩」と「BB フラッシュ」は軽いエサなのでゆっくりした落下を演出し、タナにへら鮒を呼び込める。また、「凄麩」の膨らみがアピールを強調し、「BB フラッシュ」の包み込むようなネバリでエサ持ちを良くしている。軽いブレンドは吸い込みやすいエサにもなっている。

### ●使い方のコツ

基エサを軽く揉んでエサ付けして打っていく。へら鮒が寄ってきて、エサが持たないときはエサ揉みの回数を増やす。さらにエサ持ちが悪くなったら 3 ～ 4 回ほど押し練りを加える。この押し練りを何度か繰り返していきながら、もっとエサを持たせるなら練り込みを加える。逆に、エサが持ちすぎて空振るときなどは、さらに吸い込みやすくするために、手水を打ってペトコンタッチにして使用する。

# 「凄麩」特集

## ブレンドの考え方

ベースエサ

### 凄麩

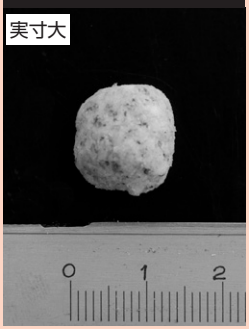
重さ・ネバリは中間に位置することから、エサの方向性に変化がつけやすく、ブレンドする麩材を生かすことができる。麩材５カップに対して水１カップで基エサを作り小分けにしながら手水を打って硬さの調整をする方法と、初めから麩材４カップ対水１カップで仕上げる方法があり、前者のほうがエサ持ちは良くなる。

### BB フラッシュ

軽くてネバリがあるのでエサのまとまりを良くしてくれる。浅ダナで落下途中からエサを膨らませる釣り方に最適で、かなり軟らかいペトコンタッチにしても使える。

ブレンドエサ

### ●エサの大きさ




### ブレンドの調整

より渋めで膨らみ具合を強調したいときは、「BBフラッシュ」を減らして「浅ダナ一本」を加える。逆にエサをしっかりさせたいときは、「ガッテン」を加える。

**●膨らみを強調**
**凄麩200cc＋BBフラッシュ100cc＋浅ダナ一本 100cc＋水100cc**
**●エサをしっかりさせる**
**凄麩200cc＋BBフラッシュ100cc＋ガッテン 100cc＋水100cc**

# 短竿向き両ダンゴのチョーチン釣り

## 現代流行のしっとりボソ系ブレンド

## 凄麩400cc＋グルバラ200cc＋ガッテン200cc＋水200cc

### ●作り方

「凄麩」400 cc、「グルバラ」200 cc、「ガッテン」200 ccをボウルに取り、水 200 ccを注いで 30 ～ 40 回ほどかき混ぜる一緒練り。打ち始めは押し練りでエアーを抜きながら、ナジミ幅を調整していく。

### ●特徴

ボソでも練っても使える「凄麩」をベースに、重さのある「グルバラ」、まとまりのある「ガッテン」をブレンドし、ダンゴエサとしては中間的な配合なので、手直しの方向性をはっきりさせやすいブレンド。

### ●使い方のコツ

まとまりのあるエサなので、誰でも使いやすくエサ付けもしやすいが、少し軟らかいなと感じる方は、「凄麩」を足して硬さ調整をする。また、盛期ではとにかくエサが持たないことが多い。打ち始めは手水を打って押し練りから入るが、へら鮒の寄りとともにウキが深くナジむように手水を打ちながら練り込んでいく。

# 「凄麩」特集

## ブレンドの考え方

### ベースエサ

**凄麩**

水中での膨らみが良いこと、軽く使えることから、アピール力に優れ、しかも芯残りもしっかりするというこれまでにはなかったベースエサ。従来のダンゴエサに比べるとボソ感が強いタッチに仕上がる。

### ブレンドエサ

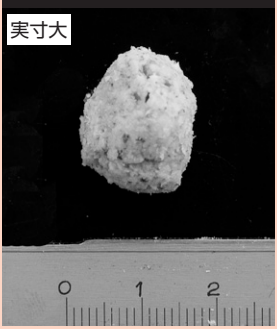
**グルバラ**

適度なまとまりと重さを備えたダンゴエサ。練っていくことでしっかりナジむようになるので、チョーチン釣りには最適。へら鮒のあおりなどがきつくなる盛期には欠かせないエサだ。

**ガッテン**

軽くてまとまりがある浅ダナ向きのダンゴエサだが、ブレンドすることでエサがしっかりするので、エサ持ちに優れたブレンドに仕上げることができる。ネバリはあるが、適度に膨らむところも優れた特徴だ。

**●エサの大きさ**




**ブレンドの調整**

配合している「凄麩」、「グルバラ」、「ガッテン」にはそれぞれ役目がはっきりしている。「凄麩」は膨らみとボソっ気、「グルバラ」は重さ、「ガッテン」はまとまり。釣っていて、エサがネバリ過ぎているなと感じたら「凄麩」、重さが欲しいときには「グルバラ」、ネバリを付けたいときには「ガッテン」をひと握り足して調整していく。すべての調整はどうやってエサを持たせるかを目的としている。

# 長竿向き両ダンゴのチョーチン釣り

## タッチを幅広く探れるオールラウンドブレンド

## 凄麩600cc＋天々200cc＋水200cc＋パウダーベイトヘラ200cc

### ●作り方

「凄麩」600 cc、「天々」200 ccをボウルに取り、良くかき混ぜてから水200 ccを注いで20～30回ほど強めにかき混ぜる。吸水のため約5分間放置してからダマをほぐし、「パウダーベイトヘラ」200 ccを加えて全体をザックリと混ぜ合わせれば完成。

### ●特徴

ボソでも練ってもエサ持ちが良く、しかもタナでの開きが良い新感覚の麩エサ「凄麩」をベースに、微粒子でまとまりの良い「天々」と、ダンゴのベースエサ「パウダーベイトヘラ」をブレンドすることで、高活性時のへら鮒のアタックに負けない芯残りを強化している。

### ●使い方のコツ

あらかじめ芯残りを強化した作り方をしているので、基エサに近いネバボソタッチで使い切るのが理想だが、ボソに反応が鈍いときには手水と撹拌を繰り返してヤワネバタッチに調整するのもOK。その際、ねらいのタッチになるまでどんなに手を加えても開きを失わないので、自在にエサをいじることで従来のエサよりも幅広くタッチを探ることができる。

# 「凄麩」特集

## ブレンドの考え方

### ベースエサ

## 凄麩

ボソでも練ってもエサ持ちが良く開きを失わない新感覚の麩エサ。他の素材との相性も良いので、従来の麩エサにはなかったこの特性を生かし、カタボソからヤワネバまで従来の麩エサの限界を超えて幅広くエサ合わせができるようになった。

### ブレンドエサ

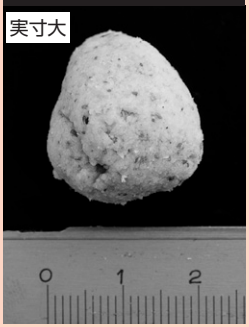
## 天々

適度な比重とネバリが特長のチョーチン両ダンゴ用のベースエサ。増粘剤の効果で極めてエサ持ちが良く、激しくエサが揉まれる盛期の深ダナを攻めるチョーチン釣りにはなくてはならない必携エサ。

ボソッ気を残しながら強い芯を作ることができる両ダンゴ用ベースエサで、こちらは現代両ダンゴ釣りに不可欠な軽さとボソッ気に加え、最後まで芯が崩れないエサ持ちの良さも兼ね備えている。

## パウダーベイトヘラ

### ●エサの大きさ




### ブレンドの調整

「凄麩」は明らかにエサの調整の難しさを軽減してくれるので、難しいことは考えず状況に合わせて思いのままにいじれば良い。ただし基本タッチや比重の過不足に関してはブレンドの比率で対応する。重めが良いときは「天々」を増やし、ボソッ気を増したいときは「パウダーベイトヘラ」を増量する。

**●重くする時**
**凄麩 600 cc+天々 300 cc+水 200 cc+パウダーベイトヘラ 100 cc**
**●ボソっ気を増す時**
**凄麩 600 cc+天々 100 cc+水 200 cc+パウダーベイトヘラ 300 cc**

# ダンゴエサの調整法

盛期の釣りの大定番は両ダンゴの宙釣りです。浅ダナ釣りにしろ、チョーチン釣りにしろエサの調整が大きくものを言います。手水、押し練りなどと表現されますが、ここではその具体的な方法を写真とともに解説していきます。

なぜ、このような調整が必要かというと、端的にいえばエサを持たせることに他なりません。盛期のへら鮒の反応は強烈であり、エサが持っていないためにアタリがでない＝釣れないということは想像以上に多いものです。とにかくブレンドに対しては敏感ですが、基本中の基本である、エサ持ちが疎かになっている人も多いのが現実です。

近年のエサは性能が高く、作っただけでもエサが持つ特性がありますが、作ったままのエサで釣り続けられる名手は皆無です。かならず、何かしらの手を加えています。その最たる例がエサを練るという行為。エサをいじることを恐れずに、エサが持たなければ、まずは練るということを習慣づけましょう。

## エサ作りの注意点

まず、紹介されているエサを作るときに、きちんと計量カップで正確な量で作らなければなりません。写真のように山盛りであったり、少なすぎたり、カップに指を入れたりでは正確に作れません。なぜ、正確に作るかと言えば、最初に作ったエサがなくなったときに、同じエサを作れなくなるからです。せっかく、釣れるエサを見つけたとしても、それと同じエサを作れなければ、釣り続けることができなくなるからです。

次に、エサを混ぜるときは、指を大きく開いてムラができないようにかき混ぜます。また、途中で、掘り起こすように混ぜることで、まんべんなくかき混ぜることができます。指を開いて大きく混ぜるのは、エサにエアーを絡ませておき、できるだけフレッシュな状態を維持するためです。これが基エサとなります。

打ち始めは基エサを小分けし、手水を打ってかき混ぜた（攪拌した）エサを打ちます。このエサでウキがなじまないようでしたら、もう一度、同じ作業を繰り返していきます。

指を大きく開いてかき混ぜる　途中で掘り起こす　基エサはエアーを含んだ状態

# エサの練り方

エサ打ちを続けると、へら鮒が寄ってくることで、次第にエサが持たなくなってきます。こういう状態になったら、エサに練りを加えて手直しをしていきます。このときの練り方には、大きく分けて３パターンあります。

## ①押し練り

これは手水を打って指の裏側でエサを押してエアーを抜く方法です。エアーが抜けた分、エサはまとまりエサが持つようになります。寄り始めは、この作業を繰り返しながらナジミ幅を調整していきます。

## ②握り練り

押し練りでは対処できないほどへら鮒が寄ってきたところで、エサをギュッと握って練ります。押し練りと同じようにエアーが抜けるだけでなく、握ったことにより、麩の粒子を潰すことでネバリが生まれ、エサが持つようになります。

## ③こすりつけ

これは、エサボウルの縁にこすりつけるように練り込んでいく方法です。こすりつける回数によってネバリの出方が変わってきますので、何度か行なってエサが持たなければ、さらに練り込みます。

## 手水

エサを手直しするときには必ず手水を打ちます。手水とは、手全体を水を張ったボウルに浸して手に水が付いた状態のこと。こうすることで、タッチを少しずつ軟らかい方向にしていくのです。

# ヒゲトロセットの浅ダナ釣り
## 釣り方の基本とコツ

盛期に向かってへら鮒の活性は高くなりますが、混雑や食い渋りなど、ときに両ダンゴでは釣りきれない、強い食いアタリがでないことがあります。それはバラケエサの近くまでは近づいてくるが、肝心のエサの芯には飛びつかない状況を意味します。

そのような状況下で威力を発揮するのが、この「ヒゲトロセット」で、おおよそ4月から10月ぐらいまで有効な釣り方です。

釣り方のイメージは、上バリのバラケエサの直下に下バリに掛けた「ヒゲトロ」を漂わせ、バラけた粒子の流れと一緒に「ヒゲトロ」を吸い込ませる釣りです。ですから、バラケエサから距離を取る必要はなく、短バリスで釣ることができるため、ストレートで切れのある強いアタリがでやすいという特徴もあります。

ポイントは、このバラケエサと「ヒゲトロ」の距離にあります。近年、この釣りもかなりシビアになってきている傾向にあり、ハリスの長さがわずか1㎝の差でアタリのでるタイミングや、アタリの出方、ひいては食う食わないに直結してきます。ですから、数㎝単位での細かいハリス調整が求められる場合もあります。アタリはでているけど、いまいちヒットしない、サワリはあるけど食いアタリにつながらないなど、あともう一歩という場面では、必ずハリス調整をしてみましょう。

また、盛期の釣り方なので、想像以上にエサが揉まれて持たなくなることもあります。そのため適度な重さがあるしっかりしたタッチのバラケエサを使うことが大前

### ●くわせエサ

**ヒゲトロ**
水に浸してハリに引っかけるだけで、強い繊維がしっかりとハリ残りする。分封タイプで少量ずつ使えるので便利。日に当てると繊維が弱くなるので、小袋の半分ずつ使うと良い。

提です。言葉ではバラケエサと表現していますが、決してウドンセットのようなタッチではなく、どちらかと言えばダンゴエサに近いタッチが基準となります。そして、このバラケエサを食ってくる確率が高い（多いときは半分）くらいで良いのです。

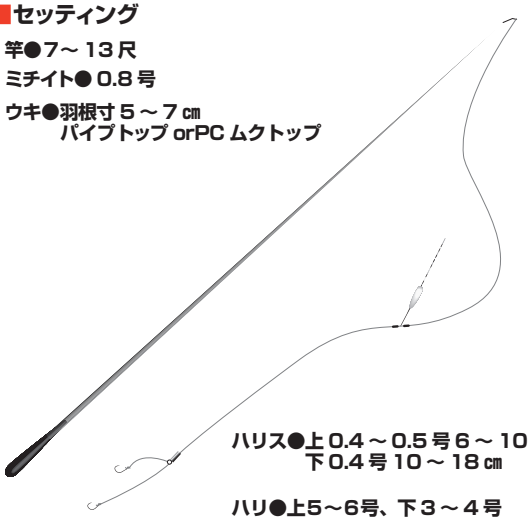
ここ数年は「ヒゲトロ」の量を多くし、重さのあるハリを使かってしっかりとハリスを張らせて釣るスタイルが主流でしたが、今シーズンはやや軽めの小バリに「ヒゲトロ」の量も少なく、ナジんだ直後に吸い込ませる早い釣りが効いているようです。

## セッティングの注意点

小さめのウキを使うことから、ウキの動きを干渉しないよう、またラインの沈みを良くするためにも細めのミチイトを使用したい。ただし、盛期の釣りなので、無用なトラブルを避けるためにも無理な細仕掛けにする必要はない。ミチイトは0.8号を標準とする。ウキは好みで構わないが、しっかりウキをナジませてタナで釣っていくときはパイプトップ、ナジミ込みからのサワリと連動して早いタイミングで釣っていくときはストロークを活かせるPCムクトップが適している。ハリスの長さはこまめに調整するが、アタリがでにくいからといって伸ばすのは良くない。

**■セッティング**

**竿●7～13尺**
**ミチイト●0.8号**
**ウキ●羽根寸5～7㎝**
**パイプトップorPCムクトップ**



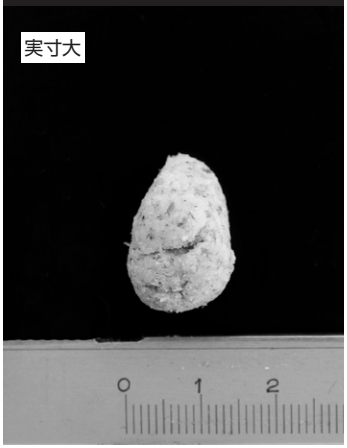
**ハリス●上0.4～0.5号6～10㎝**
**下0.4号10～18㎝**

**ハリ●上5～6号、下3～4号**

**●オモリ** 実寸大

0.25㎜厚板オモリ 17㎜×15～25㎜

**●エサの大きさ**



# ヒゲトロセットの浅ダナ釣り

## しっかりとなじませてタナを作って釣るパターン

## ガッテン200cc＋天々200cc＋ダンゴの底釣り夏50cc＋水100cc

**●作り方**

「ガッテン」200 cc、「天々」200 cc、「ダンゴの底釣り夏」50 ccをボウルの中でよく混ぜ合わせてから水 100 ccを注いで 30 回ほどかき混ぜる。しばらく放置して、数回の押し練りを加えて使う。

**●特徴**

　へら鮒がはしゃぎ気味で初めから上層に溜まっているときや、しっかりとなじませてタナを作りながら釣ったほうがいいサイズが混じるときに有効。「ダンゴの底釣り夏」が入っているため、一発仕上げで重さとネバリがついたエサになる。

**●使い方のコツ**

　できあがったエサに押し練りを加えながらバラケ性をコントロールしていくが、練り込み過ぎはエサの特徴が生かされず、タナでの膨らみも悪くなるので要注意。「ダンゴの底釣り夏」をブレンドしたエサはあまりいじらないで使うのがコツだ。

## ブレンドの考え方

### 基本ブレンド

## ガッテン

ネバリのでる麩材で芯残りもするため、エサが叩かれるようなときでもヤワタッチで使用することができる。また、練り加減でエサの開かせ方に変化がつけられるので、基エサからの微調整もしやすい。

## 天々

「ガッテン」同様にネバリのでる素材だが、麩材が細かいためタナに入ってから膨らむ特徴がある。エサがタナまで持ち、そこらかジワジワ開くダンゴタッチにするには最適で、「ガッテン」との組み合わせ（相性）も良い。

## ダンゴの底釣り夏

比重があり、ネバリもでるエサで、魚を落ち着かせる効果も強い。比較的麩材に絡めてあまりいじらないほうが良く、練れば練るほどバラケ性はなくなっていく。

### ブレンドの調整

途中から麩材を入れて硬さの微調整をすることはなく、調整は手水を打っての押し加減・練り加減のみ。目安になるのはきっちりとナジミ幅がでて、その位置でウキが止まり停止すること。ナジミ幅がでなかったり、すぐにウキが戻ってくるようでは食わせエサに反応させることができないので、少しずつ押し練りを加えて調整していく。

# ヒゲトロセットの浅ダナ釣り
## 上からタナに引き込んで釣るパターン

## パウダーベイトヘラ200cc＋軽麩200cc＋プログラム100cc＋水100cc

### ●作り方

「パウダーベイトヘラ」200 cc、「軽麩」200 cc、「プログラム」100 ccをボウルの中でよく混ぜ合わせてから水 100 ccを注いで 30 回ほどかき混ぜる。指先にネバリを感じたらそのまま放置する。しっとりタッチにして使っていく。

### ●特徴

軽いダンゴエサでタナに引き込みながら釣るため、「パウダーベイトヘラ」と「軽麩」で上層から煙幕を引くような細かな麩材をブレンド。なおかつ「プログラム」をブレンドしてエサ持ちも良くしている。タッチの調整幅も広いブレンド。

### ●使い方のコツ

小分けにして押し練りを加えてエアーを抜きながらナジミ幅を調整する。エサはある態度ネバリをだして使用する。エサのまとまりは良いが、麩材だけでは充分なネバリがでにくいので、小分けにして押し練りや握り練りを加え、ねっとりタッチにしたほうがタナで静かに膨らむエサになる。

## ブレンドの考え方

### 基本ブレンド

## パウダーベイトヘラ

中間的な比重とネバリで、エサの方向性を自在に変えることができる。ベースエサとしても良く、今回のように他とのブレンド性にも優れている。硬めで使用するよりも、ヤワネバタッチで使用するほうが使いやすい。

## 軽麩

細かな麩材で軽く糸を引くようにバラける特徴がある。比重は軽めでネバリもでにくく硬さ・タッチの微調整には使いやすい。

## プログラム

エサのまとまりが良く中間的な比重を有している。今回のようなダンゴエサには最適で、タナでエサを持たすことができる。ボソで使用しても、練り気味に変化させても応用幅が広い。

### ブレンドの調整

調整はへら鮒の寄りとともに手水を打っての押し練り･練り込みで対応する。ウキが立った位置から受け気味に入っていきナジミ切るタイミングでアタるのが理想だが、これを意識し過ぎてしまうと次第にナジミが浅くなってしまうので、寄りがきつくなってもナジませる練り加減を心がけることが最大のポイントだ。

# ヒゲトロセットのチョーチン釣り
## 釣り方の基本とコツ

「ヒゲトロ」セットのチョーチン釣りは、浅ダナ釣りと同じようなイメージで、その釣り方は大きく分けて2つあります。

ひとつは、大きめのウキ（オモリ負荷量が多い）を使い、タナにしっかりエサを入れて釣る釣り方です。もうひとつは、小さめのウキ（オモリ負荷量が少ない）でねらいのタナより上から追わせるようにして釣っていく方法です。どちらの釣りが効果的かは日並みによって違いますが、いずれの釣り方もウキをナジませるという基本は絶対厳守してください。ちなみに、ウキの大小は盛期のへら鮒の寄りに負けない（ウキがきちんと立つこと）範囲での大小ですから、サイズや周りの人との比較に惑わされないようにしましょう。

エサ使いに関しては、バラケエサはダンゴ釣りの感覚で手直ししていきます。基本は手水を打って押し練りや練り込みで、必要以上にいじらないこともポイントです。ですから、エサの大きさやハリの大きさでの対応も必要になってきます。

釣っていくうえでのキモとして、アタリの取り方があります。「ヒゲトロ」セットは盛期にする短バリスの釣りですから、ズバッと入るような力強い大きなアタリばかりと思われるかもしれませんが、実はそうとも限りません。長くても20㎝ていどのハリスですが、盛期のへら鮒のあおりは強烈でハリスが張りきらないことも多々あります。

ですから、ナジんだところでいったん静かになって、そこからへら鮒のあおりのあとでチクッやズッという

### ●くわせエサ

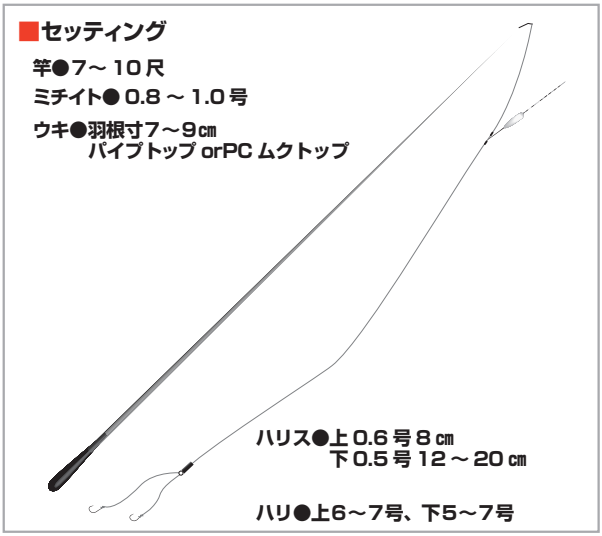
**ヒゲトロ**
ハリに掛ける量や長さによってアタリがでたりでなかったり、ヒットしたり空振ったりするので、掛け方を色々試してみるとよい。ハリ抜けしやすい場合は、巻き付けたりするのも効果的だ。

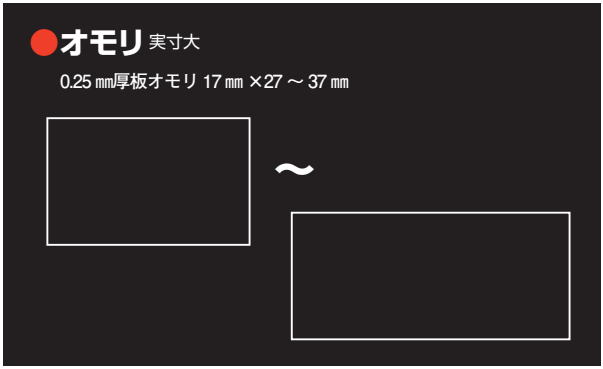
アタリも手をだしていきます。また、落ち込みの変化でも食っているときもあります。この釣りは基本的にヒット率は高い釣りなので、どのアタリがその日の正解なのかを見極めて、アタリを絞ってくことが大切になってきます。

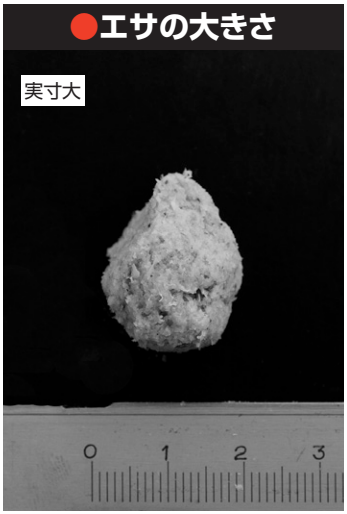
クワセの「ヒゲトロ」はハリから抜けないことが大前提です。空振りが目立つときは「ヒゲトロ」がハリ抜けしてないか確認する必要があります。掛ける量や長さによってアタリ数やヒット率が変わってきますので、色々と試すことも必要です。

## セッティングの注意点

浅ダナと違い、繊細さを求めるよりトラブルになりにくいセッティングを心がける。ラインは太め、ハリは大きめが基本である。とくにハリスは短いために、両方のハリが魚体に掛かることも多く、ハリスを外す際に切れることもある。また、ダブルになって切れてしまうなど、トラブルも多くなるので、ストックを多く準備しておくことが必要だ。竿の長さはバラケエサをコントロールできる範囲で選択するが、10尺まであれば充分である。



# ヒゲトロセットのチョーチン釣り
## しっかりとなじませてタナを作って釣るパターン

**ペレ道100cc＋スーパーダンゴ100cc＋パウダーベイトヘラ200cc＋水100cc**

＋

＋

＋

### ●作り方

「ペレ道」100 cc、「スーパーダンゴ」100 cc、「パウダーベイトヘラ」200 ccをボウルへ入れ、そこへ水 100 ccを注いで良くかき混ぜる一緒練り。余計なネバリをださないために、しつこくかき混ぜないこと。

### ●特徴

「ペレ道」の集魚効果と重さを利用し、強力にへら鮒を寄せつつ、重さでしっかりナジませることができる。「ペレ道」と「パウダーベイトヘラ」でしっかりエサ持ちして、「スーパーダンゴ」がバラケ効果を発揮とネバリ過ぎを解消している。

### ●使い方のコツ

　しっかりエサをナジませることがコツだが、ペレット系はネバリが強くなりすぎると開きが悪くなるので、エサを練っていく調整は手水を打って軽く押し練るていどに止めたい。そこで、エサの大きさを利用してナジミを調整する。エサの大きさの範囲としては、パチンコ球くらいから 500 円玉ぐらいを打ち分けてみる。

## ブレンドの考え方

### 基本ブレンド

# ペレ道

ペレ宙用ダンゴのベースエサ。ペレットならではの強力な集魚力と重さに加え、まとまりがいいエサに仕上がるのが特長。時間がたってもペトつき感がなく、変化が少ないペレット系ダンゴエサができる。

# スーパーダンゴ

バラケエサからダンゴエサまで幅広く対応でき、エサ全体を軽く仕上げることができるので、アピール効果が期待できる。練り込んでもエサが締まる「目詰まり」感がないので、仕上げたタッチが持続しやすい。

# パウダーベイトヘラ

軽くてまとまりがあり、エサ持ち、アピール力などのバランスに優れている。 粒子が細かくポソッとしたタッチが幅広く釣り方を問わず、現代のへら鮒に好反応を得られる。

### ブレンドの調整

使い方のコツで記したように、手水による押し練りとエサの大きさで対応していくのが基本。ただし、エサがネバリ過ぎたときは、「粒戦」を水でふやかさないでそのままひとつかみ足していく。ネバリが強すぎるとウキの動きがおとなしくなるが、それが復活するまで「粒戦」を少しずつ足していく。

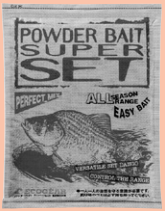
# ヒゲトロセットのチョーチン釣り

## 混雑時などにウキを動かして釣るパターン

## バラケマッハ200cc＋パウダーベイトヘラ200cc＋パウダーベイトスーパーセット100cc＋水100cc

＋

＋




＋

### ●作り方

「バラケマッハ」200 cc、「パウダーベイトヘラ」200 cc、「パウダーベイトスーパーセット」100 ccをボウルへ入れ、そこへ水 100 ccを注いで良くかき混ぜる一緒練り。30 回ほどかき混ぜてムラなく仕上げる。

### ●特徴

ペレット系に比べて軽い仕上がりとなっており、ウキを動かしていきたいときに有効なブレンド。軽いためフカフカするような動きもでるが、とにかくウキの動きは増える。バラケエサへの反応が弱いときに威力を発揮する。

### ●使い方のコツ

両ダンゴのエサ使いと同じように、手水を打ってからの押し練りや練り込みでウキのナジミ幅をコントロールする。さらに、ペレット系同様にエサの大きさも利用し、上からのサワリが多くても必ずナジむように調整する。バラけながらも持たせるイメージのエサなので、練り込みすぎは厳禁。

## ブレンドの考え方

### 基本ブレンド

# バラケマッハ

両ダンゴからセット釣りのバラケエサまで、幅広く使えるベースエサ。ボソッとした手触りでバラケ性が長続きするのが特長。重さもあり、ウワズリにくい縦バラケでへら鮒のタナを安定させることができる。

# パウダーベイトヘラ

軽くてまとまりがあり、エサ持ち、アピール力などのバランスに優れている。 粒子が細かくポソッとしたタッチが、幅広く釣り方を問わず、現代のへら鮒に好反応を得られる。

# パウダーベイトスーパーセット

セット釣りのバラケエサではまとまりのあるタイプで軽く仕上がる。エサ全体をまとめながらタナで膨らむイメージで軽さもあってアピール力を担う。

### ブレンドの調整

バラケ性を活かしたまま使いたいので、エサ持ちの加減はエサの大きさに頼りたい。持たなければ大きく、持ちすぎれば小さくが基本だが、大きすぎてエサが入っていかない、小さくてもバラケ性がなければナジミやすいなど、バリエーションがあるので、色々と試していきたい。

## ブレンドの考え方

### 基本ブレンド

# バラケマッハ

両ダンゴからセット釣りのバラケエサまで、幅広く使えるベースエサ。ボソッとした手触りでバラケ性が長続きするのが特長。重さもあり、ウワズリにくい縦バラケでへら鮒のタナを安定させることができる。

# パウダーベイトヘラ

軽くてまとまりがあり、エサ持ち、アピール力などのバランスに優れている。 粒子が細かくポソッとしたタッチが、幅広く釣り方を問わず、現代のへら鮒に好反応を得られる。

# パウダーベイトスーパーセット

セット釣りのバラケエサではまとまりのあるタイプで軽く仕上がる。エサ全体をまとめながらタナで膨らむイメージで軽さもあってアピール力を担う。

### ブレンドの調整

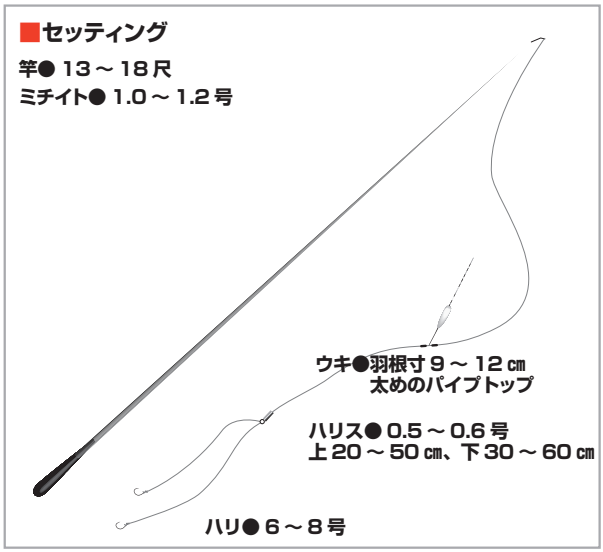
バラケ性を活かしたまま使いたいので、エサ持ちの加減はエサの大きさに頼りたい。持たなければ大きく、持ちすぎれば小さくが基本だが、大きすぎてエサが入っていかない、小さくてもバラケ性がなければナジミやすいなど、バリエーションがあるので、色々と試していきたい。

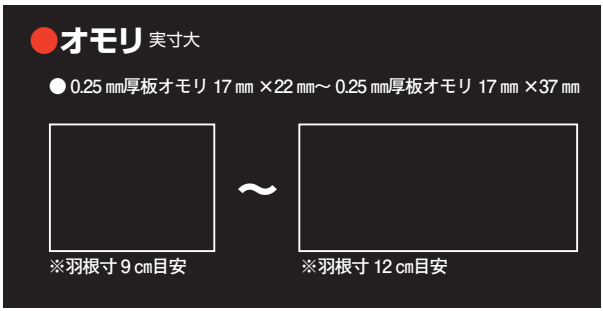
## セッティングの注意点

エサ持ちの良い大きめのハリで、表層に群がる食い気のないへら鮒の攻撃をかわし、さらに活性に合わせたオモリ負荷量のウキを選択することで早くなじませること。そしてエサの重さを支えながらもアタリの激しさに負けない環境を整えると、アタリ返しが取りやすく良型を釣り分ける効果も増す。

竿は釣り場やポイントにもよるが概ね 13 ～ 18 尺までを範囲とするが、好釣果がでるときは 15 尺前後で決まることが多い。ミチイトは強度がありなおかつ沈みの早いタイプを選ぶ。ハリは軸が太いダンゴタイプが良い。

方も重要です。食い気のないへら鮒しか口を使わないときには一発取りも必要ですが、ねらいの大型べらが口を使い始めたらアタリを送り気味にすることで、小型と良型の釣り分けが可能になります。このときは落ち込みアタリは取らず、なおかつ半信半疑のアタリは見送り、戻しかけた直後の消し込みアタリだけに絞ります。このアタリがベストのアタリであり、エサ・タックルが合っていればヒット率は急上昇し、大型の連チャン爆釣モードに突入する可能性が極めて高くなるのです。



# ペレ宙
## タナに良型を寄せて釣り分けるパターン

# ペレ道50cc＋水200cc＋ペレ軽400cc＋BBフラッシュ400cc

（※ ペレ道は 20 ～ 100 ccで調整）

**●作り方**

経時変化によるネバリの発生を抑えるために、先に「ペレ道」50 ccに水200 ccを加えて５分ほど放置。完全に吸水させてから「ペレ軽」400 ccと「BBフラッシュ」400 ccを加え、強く練らないように全体をザックリと混ぜ合わせれば完成。多少ムラがあっても構わない。

**●特徴**

夏場に最も活性が高まる時期のストロングスタイルのペレ宙ブレンド。ライトペレ宙が主流である現在ではやや重めのエサだが、ヘラ鮒の動きが激しくエサが持たない場合や食いが良い良型がエサを追うときには、容易に表層の小型べらをかわしてタナに入ることで釣り分けがしやすくなる。

**●使い方のコツ**

ネバリのでやすいペレット粒子は少なめなので、基エサに近いカタボソタッチはもちろん、手水を加えて練り込んだヤワネバタッチまで、時々刻々変化するヘラ鮒の状態に合わせて幅広く調整できる。ある意味ネバリのでやすいペレット系麩エサは練ってはいけないというタブーを払拭する、極めて応用範囲が広く自由度の高いエサ使いができる。

## ブレンドの考え方

ベースエサ

### ペレ軽

現代ペレ宙には欠かせないベースエサで、従来のペレットエサの重さと経時変化を抑えたライト感覚の麩エサである。ペレットという特別な意識を持たずに、普通の麩エサとしても使える汎用性にも優れている。

ブレンドエサ

### BBフラッシュ

ネバリをださずにエサ持ちを強化できるので、特にボソタッチで決まるときに威力を発揮する。また集魚剤が入っていないためペレットの濃度調整や重さの軽減にも効果的なので、ライトペレ宙における名脇役として欠かせない存在である。

### ペレ道

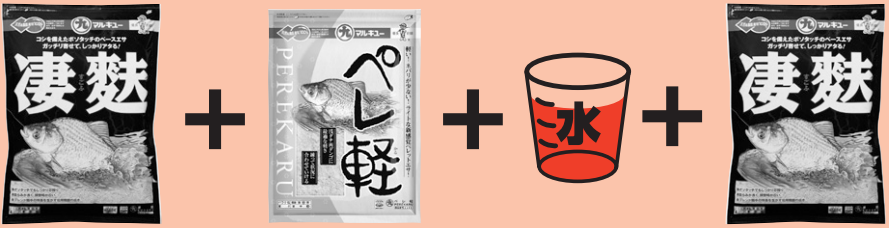
重さと集魚力を増し、夏場に激しく上ずろうとするヘラ鮒のタナを安定させ、強い時合いを構築する効果が大きい。

### ブレンドの調整

活性が高いときほど「ペレ道」の量を増すと大型べらが揃う傾向だが、活性が低いときはブレンドから省いても構わない。要は活性に合わせてペレットの濃度を調整するのがポイント。またエサ持ちが悪くなったら「粘力」を適宜（※ 様子を見ながら１～２杯程度）加えるのも効果的。

# ペレ宙
## 釣り分けが困難なときに確実に釣り込むパターン

# 凄麩400cc＋ペレ軽400cc＋水200cc＋凄麩200cc




### ●作り方
「凄麩」400ccと「ペレ軽」400ccを混ぜ合わせてから水200ccを注ぎ、全体に水が回って吸水が完了するまで5分ほど放置。安定してから「凄麩」200ccを加えて大きくザックリかき混ぜ、ザラッとした感触が指先に残る程度に止めておけば完成。

### ●特徴
食いがやや悪いときは良型を釣り分けることは難しいが、このブレンドならばどんなへら鮒が相手でもウワズリを抑え、タナを安定させることで極めて釣りやすい時合が構築できる。いわば活性や食い気の乱高下にもフレキシブルに対応できるライトペレ宙のオールラウンドブレンドだ。

### ●使い方のコツ
ペレット特有のベタツキ感は一切なく経時変化も少ないので、普通の麩エサ感覚で思い切って手を加えてエサ幅を広く探っていくと良い。硬めのネバボソタッチで上層からエサを削らせながらタナで食わせる釣りも、練り込んだヤワネバタッチでナジミ込みの一発取りも可能なので、状況に応じて強いアタリがでるタッチをこまめに探るのがコツ。

## ブレンドの考え方

ベースエサ

### 凄麩

ボソでもネバでもエサ持ちが良く、しかもタナで確実に膨らむ特性を持つ新感覚の麩エサ。集魚剤はさなぎ粉だけとシンプルなので、どんな素材と合わせても自らの特性を失うことなく相手の特徴を引きだす。

### ペレ軽

現代ライトペレ宙を代表するベースエサで、従来のペレットエサの欠点であった重さと経時変化を抑えたライト感覚の麩エサである。大型べらが覚醒しない時合でも確実に良型の摂餌を促すことができるポテンシャルは他に類を見ない。

ブレンドエサ

### ブレンドの調整

どのようなエサ使いも可能になった「凄麩」ブレンドパターンだが、明らかに軟らかいタッチが良いと分かったときは後から加える「凄麩」を省く。またペレ宙ではペレットの濃度も決め手になることがあるので、濃いめが良いときは「ペレ軽」と「凄麩」の比率を３：１とし、薄めが良いときは１：３とする。

- **ペレット濃いめ＝ペレ軽 600 cc＋水 200 cc＋凄麩 200 cc**
- **ペレット薄め＝ペレ軽 200 cc＋水 200 cc＋凄麩 600 cc**

# 両ダンゴの浅ダナ釣り
## 軽さでアピールして食わせる速攻パターン

## ガッテン200cc＋グルバラ100cc＋浅ダナ一本100cc＋水100cc

### ●作り方

「ガッテン」200 cc、「グルバラ」100 cc、「浅ダナ一本」100 ccをボウルの中でよく混ぜ合わせてから水 100 ccを注いで 30 回ほどかき混ぜる。指先にネバリを感じたらそのまましばらく放置。後は押し練りを加えながら使用する。

### ●特徴

軽めのエサに反応するときで、上から追わせて吸い込ませるような時合に最適。ネバリのでる素材だけのブレンドなので、高活性時に起こるナジミ途中の強烈なへら鮒のアタックにも負けないエサ持ちを備えている。

### ●使い方のコツ

ネバリのでる素材が中心のため大量に作らない。麩材は 400 ccで 1 日このエサを使用すると数多く作ることになるが、ネバリ加減も新鮮なほうが良いのでこまめに作ること。初めは小分けにしたエサに数回押し練りを加えていき、ナジミ幅を調整。食いが悪いときには徐々に手水を打ってしっとりヤワに微調整していく。かなり、ペトコン状態にしてもエサは持ち、一発取りがねらえるエサになる。

# 実績抜群のイチ推しブレンド

## ブレンドの考え方

### 基本ブレンド
## ガッテン

カッツケから1mのタナに有効な両ダンゴエサ。宙釣りでへら鮒にエサがもまれても芯残りがいいので、しっかりハリのフトコロに残り「ここ一番」の明確なアタリがでる。軽めのエサなのでアピール力も高い。

## グルバラ

細かな麩材でエサのまとまりが良く、比重もある。エサ全体をまとめる効果があり、両ダンゴの釣りに最適。練り込むと比重が加わりナジミ幅がでやすくなるのでへら鮒のタナを安定させることにもひと役買っている。

## 浅ダナ一本

軽さは麩エサ群のなかでもトップクラス。練り込み次第でエサ持ちをコントロールできるので、調整しながらエサを合わせていく両ダンゴ釣りには欠かせない。吸水性が良いため、エサの芯が軟らかくなるのが早く、カラツンになりにくい。

### ブレンドの調整

調整は手水を打って軟らかくする方向だが、エサが持たないときには「グルバラ」を200 ccにして「浅ダナ一本」を抜く。または、「浅ダナ一本」を「BBフラッシュ」に替えると軟らかくしていってもエサが抜けにくくなる。時間帯によっては、やや開きが必要なときもあるが、その場合は、硬く細かな麩材を振りかけながら使用する。相性的には「バラケマッハ」「スーパーダンゴ」などが適している。

**●エサ持ちをよくする**
**①ガッテン 200cc+グルバラ 200cc+水100cc**
**②ガッテン 200cc+グルバラ 100cc+**
**BBフラッシュ100cc+水100cc**

# 両ダンゴのチョーチン釣り
## しっかりエサをなじませて釣るパターン

# 天々400cc＋ガッテン400cc＋水200cc＋パウダーベイトヘラ200cc

＋

＋

＋

### ●作り方

「天々」400 ccと「ガッテン」400 ccをボウルに取り、良くかき混ぜてから水 200 ccを注いで 20 ～ 30 回かきほど混ぜる。吸水のため約 5 分間放置してから「パウダーベイトヘラ」200 ccを加え、強く練らないように全体をザックリと混ぜ合わせれば完成。

### ●特徴

現在最も反応が良いネバボソタッチの代表格。粒子が細かくまとまりの良い軽めの麩材が主体のブレンドで、仕上げたままでは開きが早く、手を加える程にネバリが加わり芯持ちが良くなるのが特徴。一緒練りにしないのは「パウダーベイトヘラ」のボソ感を最大限生かすため。

### ●使い方のコツ

ネバボソタッチでも開きは良いので、ウキの動きだしが早いときは打ち始めでもやや練り気味にしたほうがへら鮒をコントロールしやすい。基エサに近い硬めのタッチでは食いアタリがでにくいときは、手水と撹拌（1回の調整は極少量の手水と撹拌 10 回程度）を繰り返して調整するが、その際タッチにメリハリをつけて幅広く探るのがコツ。

# 実績抜群のイチ推しブレンド

## ブレンドの考え方

### 基本ブレンド

**天々**

増粘剤を含むエサ持ちの良さが特徴で、適度な比重がウワズリを抑えるので、盛期の深めのタナを攻めるチョーチン釣りにはなくてはならない必携エサ。また粒子が細かいので他の麩材との相性も良く、ブレンド相乗効果は極めて高い。

**ガッテン**

まとまりの良さが特長のダンゴエサで、現代両ダンゴ釣りに不可欠な軽さを兼ね備えている。特に食いが不安定な状況下でも、エサの自然落下と膨らみが確実にアタリを引き出すポテンシャルは秀逸。

**パウダーベイトヘラ**

エサのまとまりが良く中間的な比重を有している。今回のようなダンゴエサには最適で、タナでエサを持たすことができる。ボソで使用しても、練り気味に変化させても応用幅が広い。

### ブレンドの調整

寄りが今ひとつのときや、さらにボソタッチが強いエサに反応が良いときは「パウダーベイトヘラ」を「バラケマッハ」に替えると良い。反対にヤワネバタッチが良いがエサ持ちが悪いときは「粘力」を１～３杯加える。ネバリも硬さも嫌われるときは「ダンゴの底釣り夏」を適宜追い足して重さで持たせると良い。

# 自在タッチ

# 自由ブレンド

新登場

●凄麩 600g(チャック袋)

## 相手を選ばない抜群のブレンド性。しかも、狙い通りのダンゴに仕上がる。

「ボソでも残り、練っても開く」だけでなく、どんな麩材とも合わせられる。
それが「凄麩」の放つ、もうひとつの魅力。
好みの麩エサをブレンドしても、相手の個性をしっかり前へ。
「凄麩」の“らしさ”をベースにしながら、
あなたが求める開きも、ネバリも、重さも、軽さもプラスできる。
イメージしているダンゴがあるなら、軸に据えるはこの一品。

**ブレンドするなら、たとえばコレ。**

- 集魚力を高めるなら ⇨「バラケマッハ」
- エサ持ちを良くし、ボソ方向にするなら ⇨「パウダーベイトヘラ」
- エサ持ちを良くし、まとまりを良くするなら ⇨「天々」
- 軽さを持たせ、まとまりを良くするなら ⇨「BBフラッシュ」「ガッテン」
- 重さを付けるなら ⇨「グルバラ」「ペレ軽」


マルキユー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4 TEL.048-728-0909
ホームページアドレス http://www.marukyu.com/


釣れるヒント満載!! へら鮒天国

マルキユーへら鮒メールマガジンも、お申込はこちらから。http://www.marukyu.com/herabunatengoku/